

SDGsと国際協力 ーソーシャルワークの視点からー

ルーテル学院大学 原島 博



SDGsと国際協力 ーソーシャルワークの視点からー

1. SDGs=持続可能な開発目標

- 2015年9月、国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(Sustainable Development, SDGs)」です。社会・経済・環境面における「持続可能な開発」を目指す、先進国も途上国も含めた国際社会共通の目標です。
- SDGsは格差をなくす(“誰ひとり取り残さない”)ことを重要な柱としています。衣食住が満たされ、ひとり一人が自律でき、安全を脅かされることのない社会を目指します。
- 2030年までの達成を目指し掲げられた17の目標(Goal)の下には、より具体的な169のターゲットが存在します。

2030年までの達成を目指し掲げられた17の目標 (Goal)



2. SDGs目標1：“地球上のあらゆる形の貧困をなくそう”

世界では、5人に1人(3億8500万人)の子どもたちが、「極度にまずしい」暮らしをしています。

※国際貧困ライン(1日1.9米ドル以下)の生活

※2020年1月現在

【事例：アフガニスタン】

多面的な貧困に苦しむ南アジアの国、アフガニスタン。栄養がとれず、きれいな水を手に入れられず、教育や仕事もないなど、人びとは貧しさのために、とても苦しい生活をしています。その一番の被害者は、子どもたちです。

■8歳のフレシタちゃんは泣きながら話します。

「パンが1切れある日もあるし、ない日もあるの。金属のかけらを拾って売るんだけど、それでやっと大きなパンが食べられるの」

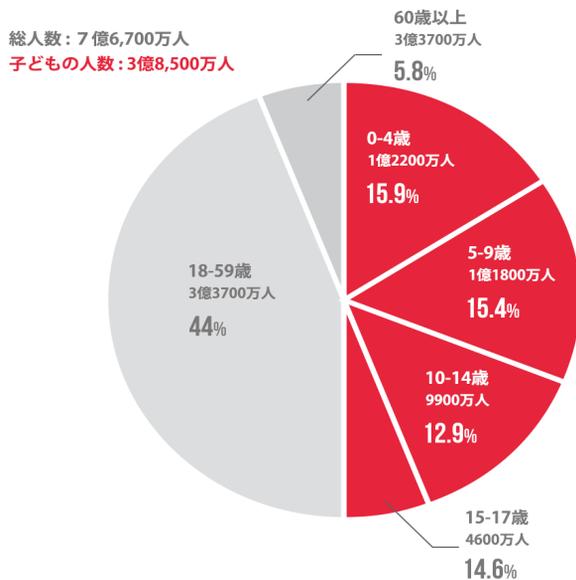
■ワリさんは仕事がないと話します。

「政府やNGOにどうか助けを求めています。」

<https://youtu.be/xP2VncHgHLY>

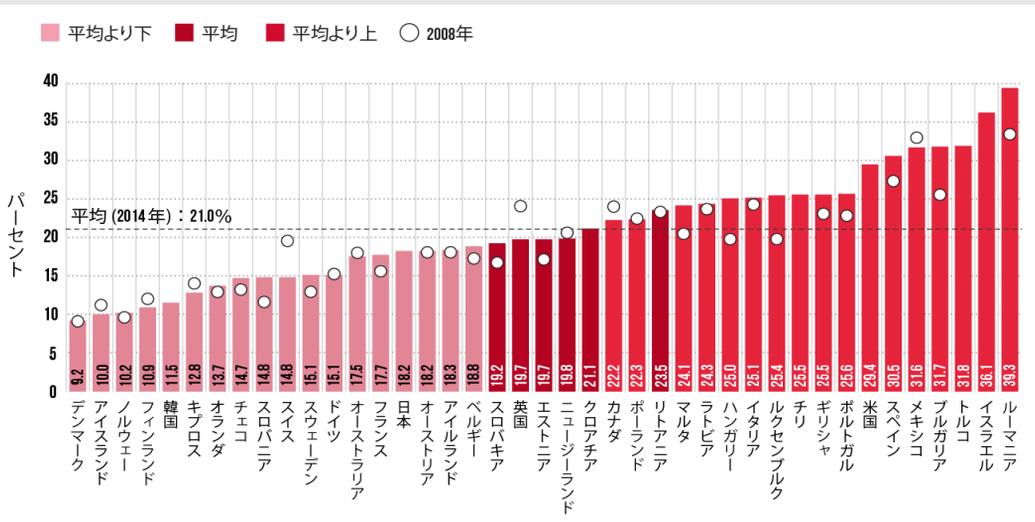
● **きわめて貧しい暮らしを強いられる人びとの数**

極度の貧困状態(1日あたり1.90米ドル以下)で暮らしている人は7億6700万人、そのうち約半数が子どもで、3億8500万人にのぼります。
 ※出典:「Ending Extreme Poverty: A Focus on Children」(UNICEF and the World Bank Group/2016)(ユニセフ資料)



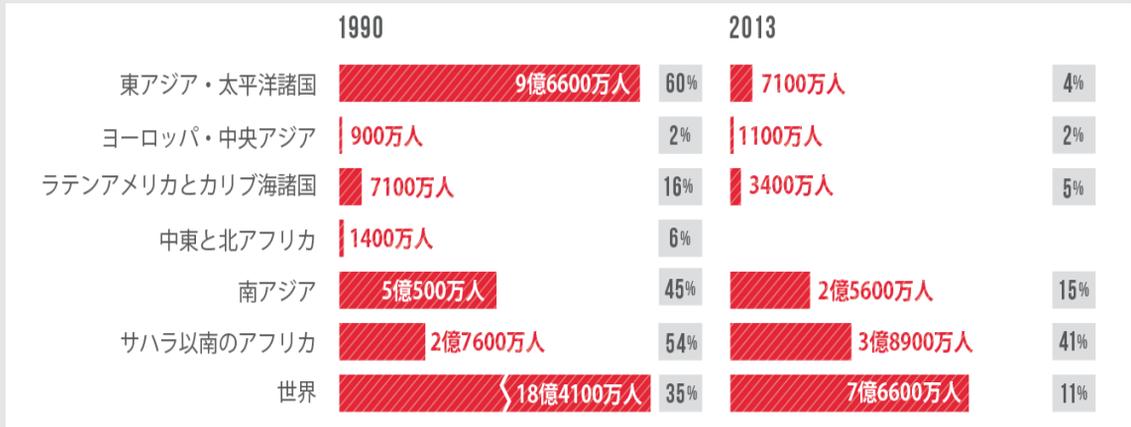
● **先進国での貧困の問題**

先進国の子どもの平均5人にひとりが相対的貧困下に暮らす
 世帯所得が中央値の60%に満たない世帯に暮らす子ども(0歳~17歳)の割合(2008年、2014年)
 出典:レポートカード14 未来を築く:世界の子どもたちとSDGs, UNICEF, 2017



● 世界の貧困の状況は、良くなっている...?

きわめて貧しい暮らしを強いられる人の数と割合の変化(1990年と2013年地域別)
 ※出典:世界銀行ホームページ "SDGs Atlas 2017"



3. 世界の人々を笑顔にするための「国際協力」

<貧困の連鎖を断ち切るには?>

Goal17 目標達成のためのしくみと国際協力の強化

栄養がとれず、きれいな水を手に入れられず、教育や仕事もないなど、人びとは貧しさのために、とても苦しい生活をしています。その一番の被害者は、子どもたちです。

【事例】ニジェール:教育から貧困問題の解決に取り組む

- 15歳以上の識字率15%
- 多くの子どもたちは、低年齢で結婚、児童労働などにより学校にいけない。
- 初等教育を受けられるようニジェール政府へユニセフや日本の国際協力行われている。事業の企画・調整を行うのがソーシャルワーカーの役割です。

<https://www.youtube.com/watch?v=ez-kOG6A-e8>

4. 講義のまとめ

- 国内・海外を問わず、国際社会の課題に取り組みを「国際協力」で
す。ソーシャルワーカーは、人々に寄り添い、「誰ひとり取り残され
れることのない社会」を実現することが使命です。
- 国内外の貧困、飢餓、衛生、教育、雇用などの問題に取り組む実践
方法として「ソーシャルワーク」があります。
- 国連だけでなく、政府やNGO（非政府組織）／NPO（非営利組織）が
連携して国際協力の取り組みを強化することが必要です。ソーシャルワ
ーカーは、他の専門職（医療関係者、教育関係者、行政担当者など）と連
携して働いています。

ルーテル学院大学で学んでみませんか

